



## 露地スナップ栽培



**野菜**  
山下 伸一  
下島農指導センター  
080-1729-1630

月	7	8	9	10	11	12
露地		○ ○	—	□ □ □ □ □ □ □ □		
		播種		収穫		

### 1、作型

### 2、圃場準備 (kg/10a当たり)

10a当たり	N	P	K
基肥	20 ~ 25	30 ~ 35	20 ~ 25
追肥	3	3	3
合計	15	20	15

### 3、播種

播種例 畝幅 120 ~ 135 cm  
株間 10 cmの1粒、2粒交互に播種し、MKK等で覆土をします。

※降雨直前や、直後には播種は避けます。地温が高すぎると立枯れを起こすため注意しましょう。

地温を下げるマルチ資材 ミラーマルチ、白黒マルチ、敷き藁など。

### 4、灌水

生育初期は灌水を控え、強い根張りを促します。灌

水チューブを使用する場合は株元を乾燥させるため、生育するにつれ株元から徐々に離していきます。収穫が始まると灌水量を増やしていきます。

### 5、整枝・摘花

採光、病虫害防除、樹作りの為10節ぐらいまでの側枝、花を摘み取ります。主枝1本仕立が基本となります。倒伏防止、品質・収量アップの為に必ずネットを張って誘引します。

### 6、収穫

莢の膨らみ7分が適期となります。収穫が遅れないようにしましょう。

### 7、その他

- ・樹、莢が凍るため霜には注意してください。
- ・病虫害はうどんこ病、灰色カビ病、ヨトウムシ、タバコガ、ハモグリバエに注意しましょう。
- ・目標草勢 花はダブルで大きいもの。莖は鉛筆より太く、葉は肉厚、丸葉で3対葉。芯は大きく横向きのもの。



## 9月の柑橘園管理



**果樹**  
山下 俊二  
下島農指導センター  
080-1729-1632

梅雨明け以降、まとまった雨が少なく、乾燥状態が続いています。降雨が無いときは、かん水を行い肥大促進、樹勢維持を行きましょう。また、高温による日焼け果が発生しています。日焼け対策と併せて見直し摘果を行きましょう。

### 1. 病虫害防除

収穫時期の近い極早生については、農薬の倍数・収穫前日数に充分注意して使用してください。

対象病害虫	農薬名	希釈倍数	収穫前日数	備考
黒点病	ジマンダイセン水和剤	600倍	温・中 30日・中90日前	極早生や年内収穫するパール柑・ボンカンには使用しない
	ナティーボフロアブル	1,500倍	前日まで	極早生、パール柑、ボンカン
ハダニ	スターマイトフロアブル	2,000倍	温・中 7日前	発生時
カメムシ	Mr. ジョーカー水和剤	2,000倍	温・中 14日前	発生時
	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	温・中 前日まで	
さび果黒点病	オキシドール水和剤80	800倍	温・中 30日前まで	河内晩柑、パール柑対象
貯蔵病害(極早生対象)	ベフトップジフロアブル	1,500倍	温7日・中前日	1回目
	ベフラン液剤25	2,000倍	温・中 前日まで	2回目

◎注意：黒点病で使用使用するエムダイファー水和剤についても極早生温州、年内収穫品種では使用しないでください。

### 2. 施肥

施肥の実施後降雨がない場合は、かん水を行い肥料を効かせるようにしてください。

施肥時期	品種名	肥料名	10a当たり施用量
9月上旬	甘夏・河内晩柑 清見・パール柑	熊本果樹肥料10-7-4 又は ひのくに果樹9-3-3	4袋
	デコボン	熊本デコボン8-3-3 又は ひのくに果樹9-3-3	4袋

### 3. 土壌水分管理

極早生温州では9月1日の分析結果を基に、今後の水分管理を徹底してください。中晩柑類については、今後も肥大促進の為雨が降らない場合は、定期的にかん水を実施してください。

### ○豊福早生

糖度	酸度	生産対応
—	2.3以上	多量かん水3t以上/10a 3日間隔
	2.0~2.2	少量かん水3t以上/10a 5日間隔
9.0以上	2.0未満	現状維持
9.0未満	2.0未満	乾燥ストレス促進

### 4. 仕上げ摘果の実施

日焼け果や病虫害果を中心に早めに仕上げ摘果を行ってください。

花卉



トンネル被覆によるトルコギキョウの省エネルギー栽培について



花卉

竹川 慶剛  
上島営農指導センター  
080-1729-1637

トルコギキョウの栽培は8月～9月に定植を行う2度切り栽培が主体ですが、11月以降に定植する作型で、定植後の生育初期に内張トンネルを利用し、多層被覆（外張り+内張りカーテン+トンネル）による省エネルギー栽培技術が近年確立してきましたので紹介します。

①定植

トンネル被覆による栽培の定植時期は夜間の最低気温が10℃くらいに低下してくる10月下旬以降が目安になります。これより早いと高夜温と日長の影響で徒長しやすくなります。黒マルチを利用して、地温確保に努めます。

②トンネル被覆

定植後10日～14日後に活着してからトンネル被覆します。(写真1) 無換気で蒸し込むことにより、花芽分化を誘導します。この時、トンネル内に十分水滴がついているように時折かん水します。トンネル被覆前に害虫防除のため農薬散布を行います。定植後、40日程度経ってからトンネルを外し、25℃を目安とした昼温管理に切り替え、節間伸長を押さえて葉先枯れを予防します。(写真2)



▲写真1 内張り+トンネル被覆



▲写真2 葉先枯れに注意!

③加温開始

トンネルを取り外した後は、夜温の設定温度を8℃～10℃を目安に加温を開始します。この時、地温10℃以上を保つことが大切です。花芽分化をさせた後は、ゆっくりと草丈を伸ばし、茎の硬くしまった品質に仕上げます。また、この頃から発蕾が始まりますので、無駄に夜温をあげない方が、プラスチックの防止にもつながります。

④収穫

開花は次第に日の長くなる4月以降になります。この時期の最低気温はまだ10℃前後に推移しますので、夜温15℃に加温し、開花遅延、花しみの抑制と品質向上に努めます。

省エネルギー栽培の作型表(4～5月出し)

月	10	11	12	1	2	3	4	5
4月	定植 → 花芽分化 → 発蕾 → 収穫							
	日中蒸し込み・無加温		8～10℃加温			15℃加温		
	トンネル被覆 40～50日		除去					
5月	定植 → 花芽分化 → 発蕾 → 収穫							
	日中蒸し込み・無加温		8～10℃加温			15℃加温		
	トンネル被覆 40～50日		除去					